



たより No.2-2020

2020(R2).10.16

インフルエンザの流行が近づいてきました。
検査は早めにしましょう。

インフルエンザの感染動向

11月下旬頃より感染者数が増え、1～3月に患者数が増加、4～5月に減少していくというパターンを示します。

インフルエンザの感染経路は咳やくしゃみによる飛沫感染です。飛沫を防ぐだけでも感染する機会は大きく減少します。また咳エチケットを心がけましょう。

- 咳エチケット：①咳をするときは人に向けないように
②手の平で受け止めたときにはすぐに手を洗う
③マスクをする



インフルエンザワクチンは感染予防になります。2014年までは3価ワクチンが使用されていましたが、近年B型株の流行が世界的に続いているため、2015年よりA型株2株、B型株2株の4価ワクチンが導入されています。

ワクチン接種の効果がでるまでには 2 週間程度要し、5 ヶ月程度まで予防効果が期待できます。

検査 & 治療

38℃以上の発熱が続く、インフルエンザ感染者と接触した場合などインフルエンザかな?と思ったら、すぐに病院を受診し検査をすることをお勧めします。当院では、発熱 1 時間から測定できる器械もあります。抗インフルエンザ薬は、症状の発現から 2 日以内に投与開始することが推奨されています。

またインフルエンザにかかった場合、学校保健安全法にて出席停止期間は、「解熱後 2 日経過するまで」に「発症後 5 日が経過していること」も条件に加わりました。速やかな対処が早めの登校につながります。

